

「実務経験のある教員等による授業科目」
のシラバス〔2024年度〕

I G L 医療福祉専門学校

2 0 2 4 年 度 授 業 概 要

必修

学科名 介護福祉学科	科目名 介護の基本B	担当者 吉村 裕子	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1学年 前期 後期
<p>・本科目は実務経験のある教員による授業科目である。</p> <p>[目的・ねらい]</p> <p>・介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。</p> <p>[内容の概要]</p> <p>・介護福祉の基本となる理念を理解し、介護福祉士としての倫理に基づき、その役割と機能である、介護を必要とする人の理解と生活を支えるしくみ、自立支援など、介護実践の基礎となる知識を学ぶ。</p> <p>[修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>・支援を必要とする人の生活を知り、生活を送る中で生じる生活障害について理解を深める。</p> <p>・介護福祉士として、利用者の状況に応じた介護の在り方について理解する。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 私たちの生活の理解① 3. 私たちの生活の理解② 4. 介護福祉を必要とする人たちの暮らし① 5. 介護福祉を必要とする人たちの暮らし② 6. 介護福祉を必要とする人たちの暮らし③ 7. 介護福祉を必要とする人たちの暮らし④ 8. 「その人らしさ」と「生活ニーズ」の理解① 9. 「その人らしさ」と「生活ニーズ」の理解② 10. 生活のしづらさの理解とその支援① 11. 生活のしづらさの理解とその支援② 12. 生活のしづらさの理解とその支援③ 13. 生活のしづらさの理解とその支援④ 14. 生活のしづらさの理解とその支援⑤ 15. まとめ・前期末試験について 			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
<p>○最新・介護福祉士養成講座4「介護の基本Ⅱ」</p> <p>○介護福祉用語辞典</p>		<p>前期末試験と授業点(小テスト、提出物等)における総合評価</p>	

2024年度授業概要

必修

学科名 介護福祉学科	科目名 介護の基本A		担当者 吉村 裕子
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)	配当学年・時期 1学年 前期 後期
<p>本科目は実務経験のある教員による授業科目である。</p> <p>[目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。 ・「介護とは何か」「介護の歴史」を知ることで、介護福祉士としての基礎的な知識を習得する。 <p>[内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉の基本となる理念を理解し、介護福祉士としての倫理に基づき、その役割と機能である、介護を必要とする人の理解と生活を支えるしくみ、自立支援など、介護実践の基礎となる知識を学ぶ。 <p>[修了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活支援を行う介護福祉士の役割や専門性について説明することが出来る。 ・介護福祉士が行う支援の意義や目的を説明することが出来る。 			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション・介護福祉士とは 2. 介護福祉を取り巻く状況① 3. 介護福祉を取り巻く状況② 4. 介護福祉を取り巻く状況③ 5. 介護福祉の歴史① 6. 介護福祉の歴史② 7. 介護福祉の歴史③ 8. 介護福祉の歴史④ 9. 介護福祉の歴史⑤ 10. 介護福祉の歴史⑥ 11. 介護福祉の歴史⑦ 12. 介護福祉の基本理念 13. 尊厳を支える介護 14. 自立を支える介護 15. まとめ 			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○最新介護福祉士養成講座3「介護の基本I」第2版 ○介護福祉用語辞典 		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>前期末試験と授業点(小テスト、提出物等)における総合評価</p>	

2024年度授業概要

必修

学科名 介護福祉学科	科目名 介護過程 I	担当者 廣田 敦子
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)
配当学年・時期 1学年 前期 後期		
<p>本科目は実務経験のある教員による授業科目である。</p> <p>[授業の目的・ねらい] 「介護過程」の意義と展開方法について理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 本人の望む生活を実現するために、求められる支援を導くためには介護過程という思考の展開が必要である。ワークを中心に「物事を進める際の考え方」を見につける。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護過程の一連の流れについて説明できる。 ・ 介護過程の前提としての「ニーズを見る視点」を理解する。 ・ 情報収集の大切さを理解する。 		
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「介護過程」の展開を学ぶ前に 2 「介護過程」の意義・目的 3 「介護過程」の全体像 4 「介護過程」とICF 5 「介護過程」の展開の理解① 6 「介護過程」の展開の理解② 7 生活支援の考え方と介護過程の必要性の理解① 8 生活支援の考え方と介護過程の必要性の理解② 9 「介護過程の理解」アセスメントとは 10 「介護過程の理解」情報収集を収集する際の留意点 11 「介護過程の理解」アセスメントの視点 12 意図的な情報収集とは 13 事例による情報収集① 14 事例による情報収集② 15 まとめ 試験について 		
[使用テキスト・参考文献] 最新・介護福祉士養成講座9 介護過程 中央法規出版		[単位認定の方法及び基準] 期末試験と授業点(授業態度、提出物)の総合評価

2024年度授業概要

必修

学科名 介護福祉学科	科目名 社会の理解A	担当者 田中 加奈子	
種類 (講義・演習・実習)	回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)	配当学年・時期 1学年 前期 後期
<p>本科目は実務経験のある教員による授業科目である。</p> <p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会の関係性を体系的に捉える。対象者の生活の場としての地域という観点から、地域共生社会や地域包括ケアの基礎的な知識を習得する。日本の社会保障の基本的な考え方、しくみについて理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>生活の基本機能とライフサイクルの変化及び家族、社会、組織、地域社会の概念を理解する。地域共生社会の実現に向けた制度や施策、社会保障制度などについて学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>生活と社会のかかわりについて理解できる。地域共生社会や地域包括ケアシステムの基本的な考え方が理解できる。社会保障制度の基本的な考え方としくみ、社会保障の現状と課題を理解できる。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 生活の基本機能、ライフスタイルの変化 3 家族の機能と役割、社会・組織の機能と役割 4 地域、地域社会、地域社会における生活支援 5 地域福祉の発展 6 地域共生社会、地域包括ケア 7 社会保障の基本的な考え方 8 日本の社会保障制度の発達 9 日本の社会保障制度のしくみ① 10 日本の社会保障制度のしくみ② 11 日本の社会保障制度のしくみ③ 12 日本の社会保障制度のしくみ④ 13 現代社会と社会保障制度 14 高齢者保健福祉の動向 15 高齢者保健福祉に関連する法体系・まとめ 			
[使用テキスト・参考文献] 最新・介護福祉士養成講座 2 社会の理解 中央法規出版		[単位認定の方法及び基準] ・期末試験と授業点(授業態度、提出物)の総合評価	

学科名 介護福祉学科	科目名 医療的ケア I		担当者 松岡 諒
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	回数 17 回	時間数(単位数) 34 時間 (2 単位)	配当学年・時期 2 学年 前期 後期
<p>本科目は実務経験のある教員による授業科目である。</p> <p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>個人の尊厳・保健医療等の制度・喀痰吸引の清潔・感染予防について学ぶ。</p> <p>安全に医療的ケアを行うための、知識・技術を学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療的ケアが必要な利用者・家族が気持ちを理解できる。 2. 医療的ケアにおける他職種との連携の理解ができる 3. 医療的ケアにおける身体の解剖・生理・感染予防を理解できる。 4. 「痰吸引」に関する呼吸器の構造・働きや感染予防・呼吸管理方法を理解できる。 5. 「痰吸引」の基本的な留意点と技術が理解できる。 			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
回	内 容	キーワード	
1 回	医療的ケア実施の基礎①	医療的ケアとは・医行為について	
2 回	医療的ケア実施の基礎②	医療の倫理について	
3 回	医療的ケア実施の基礎③	喀痰吸引等制度、医療的ケアと喀痰吸引の背景①	
4 回	医療的ケア実施の基礎④	喀痰吸引等制度、医療的ケアと喀痰吸引の背景② 安全な療養生活	
5 回	医療的ケア実施の基礎⑤ 清潔保持と感染予防①	清潔保持と感染予防	
6 回	医療的ケア実施の基礎⑥ 清潔保持と感染予防②	療養環境の清潔、消毒法、消毒と滅菌	
7 回	医療的ケア実施の基礎⑦ 健康状態の把握①	健康状態の把握	
8 回	医療的ケア実施の基礎⑧ 健康状態の把握②	急変状態について	
9 回	喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）①	呼吸のしくみとはたらき、いつもと違う呼吸状態	
10 回	喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）②	喀痰吸引とは（痰の正常・異常）	
11 回	喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）③	人工呼吸器と吸引	
12 回	喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）④	子どもの吸引について、吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意、呼吸器系の感染と予防	
13 回	喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）⑤	喀痰吸引により生じる危険・事後の安全確認 急変・事故発生時の対応と事前対策	
14 回	喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）⑥	喀痰吸引で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持	
15 回	喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）⑦	吸引の技術と留意点、喀痰吸引にともなうケア①	
16 回	喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）⑧	吸引の技術と留意点、喀痰吸引にともなうケア②	
17 回	まとめ	小テスト（主に喀痰吸引）	
[使用テキスト・参考文献] 最新介護福祉全書 15 医療的ケア 中央法規出版		[単位認定の方法及び基準] 学期末試験等 *小テストにおいては、9割以上の者を合格とし、合格しなければ演習の授業に進めない（介護福祉法施行規則）	

2024年度授業概要

必修

学科名 鍼灸学科	科目名 東洋医学臨床論 I	担当者 尾野 佳代
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	回数 60回	時間数(単位数) 120時間 (4単位)
配当学年・時期 2学年 前期 後期		
<p>本科目は実務経験のある教員による授業科目である。鍼灸院での勤務経験を持ち、現在も附属鍼灸院で鍼灸の臨床を行なっている教員が、臨床経験をもとに各疾患についてわかりやすく解説を行う。</p> <p>[目的・ねらい]</p> <p>診察の結果をもとに鍼灸治療の適・不適を判断し、適切かつ安全な治療方針および治療計画を立てるための能力を養う。</p> <p>[内容の概要]</p> <p>臨床上遭遇しやすい症候・疾病に対する西洋医学に基づく考え方と東洋医学に基づく考え方を、教科書をベースに配布資料を交えて学習する。</p> <p>[修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>西洋医学に基づく考え方と東洋医学に基づく考え方を総合的に理解し、鍼灸治療の適・不適を判断した上で、適切かつ安全な治療方針および治療計画を立てることができる。</p>		
[授業の日程と各回のテーマ・内容]		
1・2	治療総論	31・32 関節痛
3・4	治療総論／肩こり	33・34 関節痛／頸肩腕痛
5・6	肩こり／頭痛	35・36 頸肩腕痛
7・8	頭痛	37・38 上肢痛
9・10	頭痛／顔面痛	39・40 肩関節痛
11・12	顔面痛／歯痛	41・42 肩関節痛／腰痛
13・14	歯痛／眼精疲労	43・44 腰痛／腰下肢痛
15	中間試験	45・46 腰下肢痛
16・17	眼精疲労／めまい	47 中間試験
18・19	めまい	48・49 下肢痛
20・21	耳鳴り・難聴	50・51 下肢痛／膝痛
22・23	耳鳴り・難聴／咳嗽と喀痰	52・53 膝痛
24・25	咳嗽と喀痰／呼吸困難	54・55 膝痛／歩行異常
26・27	呼吸困難	56・57 歩行異常
28・29	鼻閉・鼻汁	58・59 顔面麻痺
まとめ・前期末試験		まとめ・後期末試験
30	試験解説／関節痛	60 試験解説／顔面麻痺
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]
<p>「新版 東洋医学臨床論 (はりきゅう編)」南江堂</p> <p>「臨床医学各論 第2版」医歯薬出版株式会社</p> <p>「臨床医学総論 第2版」医歯薬出版株式会社</p>		<p>年4回の定期試験の平均点が60点以上で単位取得を認定する。(学生便覧参照)</p>

2024年度授業概要

必修

学科名 鍼灸学科	科目名 臨床医学各論 I	担当者 上垣内 敬司																																
種類 (講義・演習・実習)	回数 60回	時間数(単位数) 120時間(4単位)																																
配当学年・時期 2学年 前期 後期																																		
<p>本科目は実務経験のある教員による授業科目である。鍼灸院に勤務しており、臨床経験が豊富な教員が、東洋的な考え方を紹介しながら、各疾患についての説明を行う。</p> <p>[目的・ねらい]</p> <p>疾病に関する医学的知識についてその概念を把握し、その原因、性状、検査、治療及びその予後について基礎的な知識を習得し、また、主要疾患に関してはその病態生理と症状の発現に関して理解しながら、各疾患の病態メカニズムについてその知識を深める。</p> <p>[内容の概要]</p> <p>一般医学における各系統の疾患についての基本的な知識を習得する。</p> <p>[修了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>臨床家として必要最低限の知識の習得と病態の把握ができるようになる。</p>																																		
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容]</p> <table border="0"> <tr> <td>1 ガイダンス、消化器疾患(口腔)</td> <td>31 糖尿病</td> </tr> <tr> <td>2~4 消化器疾患(食道・胃)</td> <td>32~33 その他の代謝性疾患</td> </tr> <tr> <td>5~7 消化器疾患(腸疾患)</td> <td>34~36 循環器疾患(心不全、弁膜疾患)</td> </tr> <tr> <td>8~10 肝臓疾患</td> <td>37 循環器疾患(不整脈、先天性心疾患)</td> </tr> <tr> <td>11 胆のう、胆道系疾患</td> <td>38~39 循環器疾患(冠動脈疾患)</td> </tr> <tr> <td>12 膵臓疾患</td> <td>40~41 循環器疾患(その他)</td> </tr> <tr> <td>13 呼吸器疾患(感染性)</td> <td>42~43 血液疾患(貧血)</td> </tr> <tr> <td>14~15 呼吸器疾患(閉塞性)</td> <td>44 血液疾患(白血病、出血性疾患)</td> </tr> <tr> <td>16 中間試験</td> <td>45 中間試験</td> </tr> <tr> <td>17~19 呼吸器疾患(拘束性、その他)</td> <td>46~48 膠原病</td> </tr> <tr> <td>20~22 腎臓疾患</td> <td>49~53 神経疾患(脳血管障害、脳腫瘍など)</td> </tr> <tr> <td>23~24 膀胱・尿道・前立腺疾患</td> <td>54~55 神経疾患(変性疾患)</td> </tr> <tr> <td>25~29 内分泌疾患(下垂体、甲状腺、副腎)</td> <td>56 神経疾患(認知症)</td> </tr> <tr> <td>前期期末試験</td> <td>57~59 神経疾患(筋疾患、末梢神経疾患)</td> </tr> <tr> <td>30 試験解説</td> <td>後期期末試験</td> </tr> <tr> <td></td> <td>60 試験解説</td> </tr> </table>			1 ガイダンス、消化器疾患(口腔)	31 糖尿病	2~4 消化器疾患(食道・胃)	32~33 その他の代謝性疾患	5~7 消化器疾患(腸疾患)	34~36 循環器疾患(心不全、弁膜疾患)	8~10 肝臓疾患	37 循環器疾患(不整脈、先天性心疾患)	11 胆のう、胆道系疾患	38~39 循環器疾患(冠動脈疾患)	12 膵臓疾患	40~41 循環器疾患(その他)	13 呼吸器疾患(感染性)	42~43 血液疾患(貧血)	14~15 呼吸器疾患(閉塞性)	44 血液疾患(白血病、出血性疾患)	16 中間試験	45 中間試験	17~19 呼吸器疾患(拘束性、その他)	46~48 膠原病	20~22 腎臓疾患	49~53 神経疾患(脳血管障害、脳腫瘍など)	23~24 膀胱・尿道・前立腺疾患	54~55 神経疾患(変性疾患)	25~29 内分泌疾患(下垂体、甲状腺、副腎)	56 神経疾患(認知症)	前期期末試験	57~59 神経疾患(筋疾患、末梢神経疾患)	30 試験解説	後期期末試験		60 試験解説
1 ガイダンス、消化器疾患(口腔)	31 糖尿病																																	
2~4 消化器疾患(食道・胃)	32~33 その他の代謝性疾患																																	
5~7 消化器疾患(腸疾患)	34~36 循環器疾患(心不全、弁膜疾患)																																	
8~10 肝臓疾患	37 循環器疾患(不整脈、先天性心疾患)																																	
11 胆のう、胆道系疾患	38~39 循環器疾患(冠動脈疾患)																																	
12 膵臓疾患	40~41 循環器疾患(その他)																																	
13 呼吸器疾患(感染性)	42~43 血液疾患(貧血)																																	
14~15 呼吸器疾患(閉塞性)	44 血液疾患(白血病、出血性疾患)																																	
16 中間試験	45 中間試験																																	
17~19 呼吸器疾患(拘束性、その他)	46~48 膠原病																																	
20~22 腎臓疾患	49~53 神経疾患(脳血管障害、脳腫瘍など)																																	
23~24 膀胱・尿道・前立腺疾患	54~55 神経疾患(変性疾患)																																	
25~29 内分泌疾患(下垂体、甲状腺、副腎)	56 神経疾患(認知症)																																	
前期期末試験	57~59 神経疾患(筋疾患、末梢神経疾患)																																	
30 試験解説	後期期末試験																																	
	60 試験解説																																	
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>「臨床医学各論」 医道の日本社 「STEP内科」 海馬書房 「病気がみえる」 メディックメディア</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>筆記による試験(中間及び期末)を評価の対象とし、60点以上取得したものを合格とし、単位取得とする。</p>																																

2024年度授業概要

必修

学科名 鍼灸学科	科目名 社会はりきゅう学実習	担当者 尾野 龍一																																																
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	回数 30回	時間数(単位数) 60時間 (2単位)																																																
配当学年・時期 3学年 前期 後期																																																		
<p>本科目は実務経験のある教員による授業科目である。鍼灸院での勤務経験をもち、現在も附属鍼灸院で臨床を行なっている教員が、臨床上よく遭遇する疾患について代表的な治療法を教授する。</p> <p>[目的・ねらい]</p> <p>現代社会における鍼灸治療の現状と課題を踏まえ、社会的ニーズの多様化に対応できる能力を修得する。</p> <p>学臨床論」の教科書をベースに配布資料を交えて学習する。同時に、国家試験の過去問を解く。</p> <p>[修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>高齢者ならびに婦人科・小児科に多い疾患の特性に応じた鍼灸治療を行うことができる。</p>																																																		
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容]</p> <table border="0"> <tr> <td>高齢者に対する鍼灸治療</td> <td>16 女性特有の症候</td> <td>婦人科・小児科疾患に対する鍼灸治療</td> </tr> <tr> <td>1 頭皮鍼 パーキンソン病</td> <td>17 月経異常</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2 頭皮鍼 脳血管障害後遺症①</td> <td>18 月経異常</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3 脳血管障害後遺症②</td> <td>19 月経異常</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4 脳血管障害後遺症③</td> <td>20 小児特有の症候</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5 刺針、施灸の練習</td> <td>21 疳の虫</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6 高血圧</td> <td>22 疳の虫/夜尿症</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7 試験練習</td> <td>23 夜尿症</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8 試験練習</td> <td>24 発熱</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9 実技試験</td> <td>25 発熱</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10 お互いへの鍼灸治療</td> <td>26 のぼせ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11 糖尿病</td> <td>27 のぼせ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12 排尿障害</td> <td>28 冷え</td> <td></td> </tr> <tr> <td>13 お互いへの鍼灸治療</td> <td>29 冷え</td> <td></td> </tr> <tr> <td>14 関節リウマチ</td> <td>後期末試験</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15 お互いへの鍼灸治療</td> <td>30 まとめ</td> <td></td> </tr> </table>			高齢者に対する鍼灸治療	16 女性特有の症候	婦人科・小児科疾患に対する鍼灸治療	1 頭皮鍼 パーキンソン病	17 月経異常		2 頭皮鍼 脳血管障害後遺症①	18 月経異常		3 脳血管障害後遺症②	19 月経異常		4 脳血管障害後遺症③	20 小児特有の症候		5 刺針、施灸の練習	21 疳の虫		6 高血圧	22 疳の虫/夜尿症		7 試験練習	23 夜尿症		8 試験練習	24 発熱		9 実技試験	25 発熱		10 お互いへの鍼灸治療	26 のぼせ		11 糖尿病	27 のぼせ		12 排尿障害	28 冷え		13 お互いへの鍼灸治療	29 冷え		14 関節リウマチ	後期末試験		15 お互いへの鍼灸治療	30 まとめ	
高齢者に対する鍼灸治療	16 女性特有の症候	婦人科・小児科疾患に対する鍼灸治療																																																
1 頭皮鍼 パーキンソン病	17 月経異常																																																	
2 頭皮鍼 脳血管障害後遺症①	18 月経異常																																																	
3 脳血管障害後遺症②	19 月経異常																																																	
4 脳血管障害後遺症③	20 小児特有の症候																																																	
5 刺針、施灸の練習	21 疳の虫																																																	
6 高血圧	22 疳の虫/夜尿症																																																	
7 試験練習	23 夜尿症																																																	
8 試験練習	24 発熱																																																	
9 実技試験	25 発熱																																																	
10 お互いへの鍼灸治療	26 のぼせ																																																	
11 糖尿病	27 のぼせ																																																	
12 排尿障害	28 冷え																																																	
13 お互いへの鍼灸治療	29 冷え																																																	
14 関節リウマチ	後期末試験																																																	
15 お互いへの鍼灸治療	30 まとめ																																																	
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>「はりきゅう実技<基礎編>」</p> <p>「スポーツ傷害のハリ療法」</p> <p>「鍼通電療法テクニック運動器系疾患へのアプローチ」</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>実技試験で評価を行う。</p> <p>実技試験60点以上の者を単位認定する。</p>																																																

2024年度授業概要

必修

学科名 柔整学科	科目名 包帯固定学	担当者 岡 智宏																																	
種類 (講義・演習・ 実習)	回数 30回	時間数(単位数) 60時間(2単位)	配当学年・時期 1学年 前期 後期																																
<p>本科目は実務経験のある教員による授業科目である。</p> <p>[目的・ねらい]</p> <p>実技を通じて柔道整復術の基本である包帯固定法を身につける。</p> <p>[内容の概要]</p> <p>軟性材料・硬性材料の一通りの扱いを修得する。また、教科書等には掲載されていないが、施術所等で使用している固定材料(弾性包帯等)の取り扱いも修得する。(各回「基本包帯法」内)</p> <p>[修了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>巻軸包帯による基本包帯法と、代表的な冠名包帯の習得を目標とする。また、基本包帯法を応用して身体の各部位に適した固定と、硬性材料を併用した固定ができるようになることを目標とする。</p>																																			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容]</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">1 ガイダンス・固定とは</td> <td style="width: 50%;">16 冠名包帯法まとめ</td> </tr> <tr> <td>2 軟性材料と硬性材料・良肢位</td> <td>17 硬性材料について</td> </tr> <tr> <td>3 巻軸包帯の扱い</td> <td>18 金属副子</td> </tr> <tr> <td>4 基本包帯法</td> <td>19 金属副子</td> </tr> <tr> <td>5 基本包帯法</td> <td>20 金属副子</td> </tr> <tr> <td>6 基本包帯法</td> <td>21 厚紙副子</td> </tr> <tr> <td>7 基本包帯法</td> <td>22 厚紙副子</td> </tr> <tr> <td>8 基本包帯法</td> <td>23 すだれ副子</td> </tr> <tr> <td>9 基本包帯法</td> <td>24 すだれ副子</td> </tr> <tr> <td>10 基本包帯法</td> <td>25 ギプス包帯</td> </tr> <tr> <td>11 基本包帯法振り返り</td> <td>26 ギプス包帯</td> </tr> <tr> <td>12 冠名包帯法</td> <td>27 冠名包帯・硬性材料振り返り</td> </tr> <tr> <td>13 冠名包帯法</td> <td>28 テーピング</td> </tr> <tr> <td>14 冠名包帯法</td> <td>29 テーピング</td> </tr> <tr> <td>前期末試験</td> <td>後期末試験</td> </tr> <tr> <td>15 前期まとめ・解説</td> <td>30 まとめ/解説</td> </tr> </table>				1 ガイダンス・固定とは	16 冠名包帯法まとめ	2 軟性材料と硬性材料・良肢位	17 硬性材料について	3 巻軸包帯の扱い	18 金属副子	4 基本包帯法	19 金属副子	5 基本包帯法	20 金属副子	6 基本包帯法	21 厚紙副子	7 基本包帯法	22 厚紙副子	8 基本包帯法	23 すだれ副子	9 基本包帯法	24 すだれ副子	10 基本包帯法	25 ギプス包帯	11 基本包帯法振り返り	26 ギプス包帯	12 冠名包帯法	27 冠名包帯・硬性材料振り返り	13 冠名包帯法	28 テーピング	14 冠名包帯法	29 テーピング	前期末試験	後期末試験	15 前期まとめ・解説	30 まとめ/解説
1 ガイダンス・固定とは	16 冠名包帯法まとめ																																		
2 軟性材料と硬性材料・良肢位	17 硬性材料について																																		
3 巻軸包帯の扱い	18 金属副子																																		
4 基本包帯法	19 金属副子																																		
5 基本包帯法	20 金属副子																																		
6 基本包帯法	21 厚紙副子																																		
7 基本包帯法	22 厚紙副子																																		
8 基本包帯法	23 すだれ副子																																		
9 基本包帯法	24 すだれ副子																																		
10 基本包帯法	25 ギプス包帯																																		
11 基本包帯法振り返り	26 ギプス包帯																																		
12 冠名包帯法	27 冠名包帯・硬性材料振り返り																																		
13 冠名包帯法	28 テーピング																																		
14 冠名包帯法	29 テーピング																																		
前期末試験	後期末試験																																		
15 前期まとめ・解説	30 まとめ/解説																																		
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>公益社団法人全国柔道整復学校協会監修 包帯固定学改訂第2版 南江堂</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>前・後期それぞれ授業回数の4/5以上出席し、実技・筆記試験結果により評価する。 いずれの試験も、前期末試験と後期末試験の合計120円(平均60点)以上で合格とする。 単位取得には実技・筆記試験のいずれも合格する必要がある。</p>																																	

2 0 2 4 年 度 授 業 概 要

必修

学科名 柔整学科	科目名 柔道整復実技ⅡA		担当者 太田 浩之・森山 嵩大		
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	回数 30回	時間数(単位数) 60 時間 (2単位)	配当学年・時期 2学年 前期 後期		
<p>本科目は実務経験のある教員による授業科目である。</p> <p>[目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 下肢の軟部組織損傷についての評価法、治療法の理解 <p>[内容の概要] (柔道整復学・理論編P380～P405)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 下肢の軟部組織損傷 (股関節、大腿部、膝関節、下腿、足趾) 2. 体幹の軟部組織損傷 (頸部、胸・背部、腰部) <p>[修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 他外傷または疾患との鑑別と応急処置の習得 					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容]</p> <table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:50%; vertical-align:top;"> <p><前期></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 股関節の軟部組織損傷 2. 股関節の軟部組織損傷 3. 股関節の軟部組織損傷 4. 大腿部の軟部組織損傷 5. 大腿部の軟部組織損傷 6. 膝関節の軟部組織損傷 7. 膝関節の軟部組織損傷 8. 膝関節の軟部組織損傷 9. 膝関節の軟部組織損傷 10. 膝関節の軟部組織損傷 11. 膝関節の軟部組織損傷 12. 下腿部の軟部組織損傷 13. 下腿部の軟部組織損傷 14. 下腿部の軟部組織損傷 15. 試験解説 </td> <td style="width:50%; vertical-align:top;"> <p><後期></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 足関節の軟部組織損傷 2. 足関節の軟部組織損傷 3. 足関節の軟部組織損傷 4. 足趾の軟部組織損傷 5. 足趾の軟部組織損傷 6. 頸部の軟部組織損傷 7. 頸部の軟部組織損傷 8. 頸部の軟部組織損傷 9. 胸・背部の軟部組織損傷 10. 胸・背部の軟部組織損傷 11. 胸・背部の軟部組織損傷 12. 腰部の軟部組織損傷 13. 腰部の軟部組織損傷 14. 腰部の軟部組織損傷 15. 試験解説 </td> </tr> </table>				<p><前期></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 股関節の軟部組織損傷 2. 股関節の軟部組織損傷 3. 股関節の軟部組織損傷 4. 大腿部の軟部組織損傷 5. 大腿部の軟部組織損傷 6. 膝関節の軟部組織損傷 7. 膝関節の軟部組織損傷 8. 膝関節の軟部組織損傷 9. 膝関節の軟部組織損傷 10. 膝関節の軟部組織損傷 11. 膝関節の軟部組織損傷 12. 下腿部の軟部組織損傷 13. 下腿部の軟部組織損傷 14. 下腿部の軟部組織損傷 15. 試験解説 	<p><後期></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 足関節の軟部組織損傷 2. 足関節の軟部組織損傷 3. 足関節の軟部組織損傷 4. 足趾の軟部組織損傷 5. 足趾の軟部組織損傷 6. 頸部の軟部組織損傷 7. 頸部の軟部組織損傷 8. 頸部の軟部組織損傷 9. 胸・背部の軟部組織損傷 10. 胸・背部の軟部組織損傷 11. 胸・背部の軟部組織損傷 12. 腰部の軟部組織損傷 13. 腰部の軟部組織損傷 14. 腰部の軟部組織損傷 15. 試験解説
<p><前期></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 股関節の軟部組織損傷 2. 股関節の軟部組織損傷 3. 股関節の軟部組織損傷 4. 大腿部の軟部組織損傷 5. 大腿部の軟部組織損傷 6. 膝関節の軟部組織損傷 7. 膝関節の軟部組織損傷 8. 膝関節の軟部組織損傷 9. 膝関節の軟部組織損傷 10. 膝関節の軟部組織損傷 11. 膝関節の軟部組織損傷 12. 下腿部の軟部組織損傷 13. 下腿部の軟部組織損傷 14. 下腿部の軟部組織損傷 15. 試験解説 	<p><後期></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 足関節の軟部組織損傷 2. 足関節の軟部組織損傷 3. 足関節の軟部組織損傷 4. 足趾の軟部組織損傷 5. 足趾の軟部組織損傷 6. 頸部の軟部組織損傷 7. 頸部の軟部組織損傷 8. 頸部の軟部組織損傷 9. 胸・背部の軟部組織損傷 10. 胸・背部の軟部組織損傷 11. 胸・背部の軟部組織損傷 12. 腰部の軟部組織損傷 13. 腰部の軟部組織損傷 14. 腰部の軟部組織損傷 15. 試験解説 				
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 柔道整復学 (理論編) ・ 柔道整復学 (実技編) 		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実技試験、筆記試験、授業態度等を総合的に判断し評価する。 (実技試験・筆記試験：60点以上合格) ・ 授業時数の4/5以上 出席を必要とする。 			

2024年度授業概要

必修

学科名 柔整学科	科目名 臨床柔道整復学 I A	担当者 埜 義徳																																	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	回数 30回	時間数(単位数) 60時間 (2単位)	配当学年・時期 2 学年 前期 後期																																
<p>本科目は実務経験のある教員による授業科目である。</p> <p>[目的・ねらい]</p> <p>1 年次に行った、柔道整復学の基礎部分をさらに発展させ各論に入っていく、総論と各論との関係性を勉強しつつ、より詳細に各部の疾患を理解・実施できることを目的とする。</p> <p>[内容の概要]</p> <p>座学と実技授業を行い、認定実技審査ならびに国家試験に繋がるような内容とする。</p> <p>[修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>上肢 (骨折・脱臼・軟損) について正しく理解し、3年次の認定実技、国家試験への土台になる。</p>																																			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容]</p> <table border="0"> <tr> <td>1 鎖骨骨折①</td> <td>16 肩関節脱臼①</td> </tr> <tr> <td>2 鎖骨骨折② (小テスト①)</td> <td>17 肩関節脱臼② (小テスト⑤)</td> </tr> <tr> <td>3 鎖骨骨折整復・固定実技①</td> <td>18 肩関節前方脱臼実技</td> </tr> <tr> <td>4 鎖骨骨折整復・固定実技② [8字体・ジュール]</td> <td>19 筋・腱の損傷 (肩板・上腕二頭筋) ①</td> </tr> <tr> <td>5 上腕骨近位部骨折①</td> <td>20 筋・腱の損傷 (肩板・上腕二頭筋) ② (小テスト⑥)</td> </tr> <tr> <td>6 上腕骨近位部骨折② (小テスト②)</td> <td>21 筋・腱の損傷 (肩板・上腕二頭筋) 実技</td> </tr> <tr> <td>7 上腕骨外科頸骨折整復・固定実技</td> <td>22 後期実技試験</td> </tr> <tr> <td>8 胸鎖・肩鎖関節脱臼①</td> <td>23 スポーツ損傷</td> </tr> <tr> <td>9 胸鎖・肩鎖関節脱臼② (小テスト③)</td> <td>24 不安定症 (小テスト⑦)</td> </tr> <tr> <td>10 肩鎖関節脱臼整復・固定実技</td> <td>25 末梢神経障害 (肩甲上神経・腋窩神経)</td> </tr> <tr> <td>11 前期実技試験</td> <td>26 その他の疾患 (小テスト⑧)</td> </tr> <tr> <td>12 肩甲骨骨折 (小テスト④)</td> <td>27 肩関節脱臼まとめ</td> </tr> <tr> <td>13 鎖骨・上腕骨骨折・胸・肩鎖まとめ①</td> <td>28 筋・腱の損傷・スポーツ損傷まとめ</td> </tr> <tr> <td>14 鎖骨・上腕骨骨折・胸・肩鎖まとめ②</td> <td>29 不安定症・末梢神経・その他まとめ</td> </tr> <tr> <td>前期期末試験</td> <td>後期期末試験</td> </tr> <tr> <td>15 試験解説</td> <td>30 試験解説</td> </tr> </table>				1 鎖骨骨折①	16 肩関節脱臼①	2 鎖骨骨折② (小テスト①)	17 肩関節脱臼② (小テスト⑤)	3 鎖骨骨折整復・固定実技①	18 肩関節前方脱臼実技	4 鎖骨骨折整復・固定実技② [8字体・ジュール]	19 筋・腱の損傷 (肩板・上腕二頭筋) ①	5 上腕骨近位部骨折①	20 筋・腱の損傷 (肩板・上腕二頭筋) ② (小テスト⑥)	6 上腕骨近位部骨折② (小テスト②)	21 筋・腱の損傷 (肩板・上腕二頭筋) 実技	7 上腕骨外科頸骨折整復・固定実技	22 後期実技試験	8 胸鎖・肩鎖関節脱臼①	23 スポーツ損傷	9 胸鎖・肩鎖関節脱臼② (小テスト③)	24 不安定症 (小テスト⑦)	10 肩鎖関節脱臼整復・固定実技	25 末梢神経障害 (肩甲上神経・腋窩神経)	11 前期実技試験	26 その他の疾患 (小テスト⑧)	12 肩甲骨骨折 (小テスト④)	27 肩関節脱臼まとめ	13 鎖骨・上腕骨骨折・胸・肩鎖まとめ①	28 筋・腱の損傷・スポーツ損傷まとめ	14 鎖骨・上腕骨骨折・胸・肩鎖まとめ②	29 不安定症・末梢神経・その他まとめ	前期期末試験	後期期末試験	15 試験解説	30 試験解説
1 鎖骨骨折①	16 肩関節脱臼①																																		
2 鎖骨骨折② (小テスト①)	17 肩関節脱臼② (小テスト⑤)																																		
3 鎖骨骨折整復・固定実技①	18 肩関節前方脱臼実技																																		
4 鎖骨骨折整復・固定実技② [8字体・ジュール]	19 筋・腱の損傷 (肩板・上腕二頭筋) ①																																		
5 上腕骨近位部骨折①	20 筋・腱の損傷 (肩板・上腕二頭筋) ② (小テスト⑥)																																		
6 上腕骨近位部骨折② (小テスト②)	21 筋・腱の損傷 (肩板・上腕二頭筋) 実技																																		
7 上腕骨外科頸骨折整復・固定実技	22 後期実技試験																																		
8 胸鎖・肩鎖関節脱臼①	23 スポーツ損傷																																		
9 胸鎖・肩鎖関節脱臼② (小テスト③)	24 不安定症 (小テスト⑦)																																		
10 肩鎖関節脱臼整復・固定実技	25 末梢神経障害 (肩甲上神経・腋窩神経)																																		
11 前期実技試験	26 その他の疾患 (小テスト⑧)																																		
12 肩甲骨骨折 (小テスト④)	27 肩関節脱臼まとめ																																		
13 鎖骨・上腕骨骨折・胸・肩鎖まとめ①	28 筋・腱の損傷・スポーツ損傷まとめ																																		
14 鎖骨・上腕骨骨折・胸・肩鎖まとめ②	29 不安定症・末梢神経・その他まとめ																																		
前期期末試験	後期期末試験																																		
15 試験解説	30 試験解説																																		
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>柔道整復学 (理論編) 改訂第7版 南江堂 柔道整復学 (実技編) 改訂第2版 南江堂</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>試験の受験には出席率 4/5 以上を必要とする。 筆記試験は小テスト (40%) 期末試験 (60%) とし て 100 点満点で評価する。 実技試験 (前期・後期) でそれぞれ 60 点以上を合格 とする。通年で実技・筆記の両方が 60 点以上の者を 単位修得とする。</p>																																	

2 0 2 4 年度 授 業 概 要

必修

学科名 柔整学科	科目名 総合演習 I A	担当者 岡 智宏																																	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	回数 30回	時間数(単位数) 60時間 (2単位)	配当学年・時期 2学年 前期 後期																																
<p>本科目は実務経験のある教員による授業科目である。</p> <p>[目的・ねらい]</p> <p>本授業で扱う疾患については、柔道整復師が行う保存療法では後遺障害などを残存させる可能性が高いものが多い。よって、基礎理論習得は基より、柔道整復師による施術の適否の判断能力を身につけていくことも目標としたい。また、基礎的な考え方を含め、臨床現場および国家試験に対応できる知識・ポイントの習得も目的とする。</p> <p>[内容の概要]</p> <p>下肢の骨折は合併症や重症度の関係や、荷重関節として正確な整復が必要であることから、柔道整復施術所で初期対応として遭遇する可能性は少ないが、後療・リハビリ現場では柔道整復師が施術にあたることもあるため、各傷病の特徴に加え、そこでの注意点などについても述べていくこととする。</p> <p>[修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>各傷病についての理解を深め、臨床に応用できる。</p>																																			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容]</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 骨盤骨骨折</td> <td>16. 下腿骨近位部の骨折</td> </tr> <tr> <td>2. 骨盤骨骨折</td> <td>17. 下腿骨近位部の骨折</td> </tr> <tr> <td>3. 骨盤骨骨折</td> <td>18. 下腿骨幹部の骨折</td> </tr> <tr> <td>4. 大腿骨近位部の骨折</td> <td>19. 下腿骨幹部の骨折</td> </tr> <tr> <td>5. 大腿骨近位部の骨折</td> <td>20. 下腿骨幹部の骨折</td> </tr> <tr> <td>6. 大腿骨近位部の骨折</td> <td>21. 下腿骨遠位部の骨折</td> </tr> <tr> <td>7. 大腿骨近位部の骨折</td> <td>22. 下腿骨遠位部の骨折</td> </tr> <tr> <td>8. 大腿骨幹部の骨折</td> <td>23. 下腿骨遠位部の骨折</td> </tr> <tr> <td>9. 大腿骨幹部の骨折</td> <td>24. 足根骨部の骨折</td> </tr> <tr> <td>10. 大腿骨遠位部の骨折</td> <td>25. 足根骨部の骨折</td> </tr> <tr> <td>11. 大腿骨遠位部の骨折</td> <td>26. 足根骨の骨折</td> </tr> <tr> <td>12. 大腿骨遠位部の骨折</td> <td>27. 中足骨の骨折</td> </tr> <tr> <td>13. 膝蓋骨骨折</td> <td>28. 中足骨の骨折</td> </tr> <tr> <td>14. 膝蓋骨骨折</td> <td>29. 趾骨の骨折</td> </tr> <tr> <td>前期末試験</td> <td>後期末試験</td> </tr> <tr> <td>15. 試験解説</td> <td>30. 試験の解説</td> </tr> </table>				1. 骨盤骨骨折	16. 下腿骨近位部の骨折	2. 骨盤骨骨折	17. 下腿骨近位部の骨折	3. 骨盤骨骨折	18. 下腿骨幹部の骨折	4. 大腿骨近位部の骨折	19. 下腿骨幹部の骨折	5. 大腿骨近位部の骨折	20. 下腿骨幹部の骨折	6. 大腿骨近位部の骨折	21. 下腿骨遠位部の骨折	7. 大腿骨近位部の骨折	22. 下腿骨遠位部の骨折	8. 大腿骨幹部の骨折	23. 下腿骨遠位部の骨折	9. 大腿骨幹部の骨折	24. 足根骨部の骨折	10. 大腿骨遠位部の骨折	25. 足根骨部の骨折	11. 大腿骨遠位部の骨折	26. 足根骨の骨折	12. 大腿骨遠位部の骨折	27. 中足骨の骨折	13. 膝蓋骨骨折	28. 中足骨の骨折	14. 膝蓋骨骨折	29. 趾骨の骨折	前期末試験	後期末試験	15. 試験解説	30. 試験の解説
1. 骨盤骨骨折	16. 下腿骨近位部の骨折																																		
2. 骨盤骨骨折	17. 下腿骨近位部の骨折																																		
3. 骨盤骨骨折	18. 下腿骨幹部の骨折																																		
4. 大腿骨近位部の骨折	19. 下腿骨幹部の骨折																																		
5. 大腿骨近位部の骨折	20. 下腿骨幹部の骨折																																		
6. 大腿骨近位部の骨折	21. 下腿骨遠位部の骨折																																		
7. 大腿骨近位部の骨折	22. 下腿骨遠位部の骨折																																		
8. 大腿骨幹部の骨折	23. 下腿骨遠位部の骨折																																		
9. 大腿骨幹部の骨折	24. 足根骨部の骨折																																		
10. 大腿骨遠位部の骨折	25. 足根骨部の骨折																																		
11. 大腿骨遠位部の骨折	26. 足根骨の骨折																																		
12. 大腿骨遠位部の骨折	27. 中足骨の骨折																																		
13. 膝蓋骨骨折	28. 中足骨の骨折																																		
14. 膝蓋骨骨折	29. 趾骨の骨折																																		
前期末試験	後期末試験																																		
15. 試験解説	30. 試験の解説																																		
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>柔道整復学・理論編 改訂第7版 南江堂 柔道整復学・実技編 改訂第2版 南江堂</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>・出席 4/5 以上を必要とする。 ・筆記試験の評価は、前期と後期の評価を総合して評価する。合計 120 点以上 (平均 60 点以上) で単位認定とする。</p>																																	

2024年度授業概要

必修

学科名 柔整学科	科目名 柔道整復実技 I	担当者 加藤 彩花																																	
種類 (講義・演習・ 実習)	回数 30回	時間数(単位数) 60時間(2単位)	配当学年・時期 1学年 <input type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期																																
<p>本科目は実務経験のある教員による授業科目である。</p> <p>[目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人体、特に運動器の基礎解剖を理解し、医療系科目を学ぶための基礎を作る。 ・骨、筋、靭帯などを正しく触れる。 <p>[内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人体解剖について解剖学 I B (解剖学 p 21～122) の基礎的な知識を深め、実際に模型や人体に触れて確認する。 <p>[修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な人体解剖 (運動系) が理解できている。主な骨・筋を触れることができる。 																																			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容]</p> <table border="0"> <tr> <td>1 解剖学総論 (用語) 骨格系総論①</td> <td>16 筋系総論 頭部の筋</td> </tr> <tr> <td>2 骨格系総論② (関節) 脊柱と椎骨①</td> <td>17 頸部の筋</td> </tr> <tr> <td>3 脊柱と椎骨② 胸郭①</td> <td>18 胸部の筋 呼吸運動</td> </tr> <tr> <td>4 胸郭② 上肢骨 (肩甲骨・鎖骨)</td> <td>19 腹部の筋</td> </tr> <tr> <td>5 上肢骨 (上腕骨・橈骨・尺骨)</td> <td>20 背部の筋</td> </tr> <tr> <td>6 上肢骨 (手根骨・指) 上肢 (関節)</td> <td>21 上肢の筋① (上肢帯の筋)</td> </tr> <tr> <td>7 予備 (進度により決定)</td> <td>22 予備 (進度により決定)</td> </tr> <tr> <td>8 下肢骨 (寛骨・骨盤)</td> <td>23 上肢の筋② (上腕の筋・前腕の筋)</td> </tr> <tr> <td>9 下肢骨 (大腿骨・膝蓋骨・脛骨・腓骨)</td> <td>24 上肢の筋③ (前腕の筋・手の筋)</td> </tr> <tr> <td>10 下肢骨 (足根骨・趾) 下肢 (関節)</td> <td>25 下肢の筋① (内・外寛骨筋)</td> </tr> <tr> <td>11 頭蓋骨①</td> <td>26 下肢の筋② (大腿の筋)</td> </tr> <tr> <td>12 頭蓋骨②</td> <td>27 下肢の筋③ (下腿の筋)</td> </tr> <tr> <td>13 頭蓋骨③ 顎関節</td> <td>28 下肢の筋④ (下腿の筋・足の筋)</td> </tr> <tr> <td>14 まとめ</td> <td>29 まとめ</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(期末試験)</td> <td style="text-align: center;">(期末試験)</td> </tr> <tr> <td>15 期末試験解説</td> <td>30 期末試験解説</td> </tr> </table>				1 解剖学総論 (用語) 骨格系総論①	16 筋系総論 頭部の筋	2 骨格系総論② (関節) 脊柱と椎骨①	17 頸部の筋	3 脊柱と椎骨② 胸郭①	18 胸部の筋 呼吸運動	4 胸郭② 上肢骨 (肩甲骨・鎖骨)	19 腹部の筋	5 上肢骨 (上腕骨・橈骨・尺骨)	20 背部の筋	6 上肢骨 (手根骨・指) 上肢 (関節)	21 上肢の筋① (上肢帯の筋)	7 予備 (進度により決定)	22 予備 (進度により決定)	8 下肢骨 (寛骨・骨盤)	23 上肢の筋② (上腕の筋・前腕の筋)	9 下肢骨 (大腿骨・膝蓋骨・脛骨・腓骨)	24 上肢の筋③ (前腕の筋・手の筋)	10 下肢骨 (足根骨・趾) 下肢 (関節)	25 下肢の筋① (内・外寛骨筋)	11 頭蓋骨①	26 下肢の筋② (大腿の筋)	12 頭蓋骨②	27 下肢の筋③ (下腿の筋)	13 頭蓋骨③ 顎関節	28 下肢の筋④ (下腿の筋・足の筋)	14 まとめ	29 まとめ	(期末試験)	(期末試験)	15 期末試験解説	30 期末試験解説
1 解剖学総論 (用語) 骨格系総論①	16 筋系総論 頭部の筋																																		
2 骨格系総論② (関節) 脊柱と椎骨①	17 頸部の筋																																		
3 脊柱と椎骨② 胸郭①	18 胸部の筋 呼吸運動																																		
4 胸郭② 上肢骨 (肩甲骨・鎖骨)	19 腹部の筋																																		
5 上肢骨 (上腕骨・橈骨・尺骨)	20 背部の筋																																		
6 上肢骨 (手根骨・指) 上肢 (関節)	21 上肢の筋① (上肢帯の筋)																																		
7 予備 (進度により決定)	22 予備 (進度により決定)																																		
8 下肢骨 (寛骨・骨盤)	23 上肢の筋② (上腕の筋・前腕の筋)																																		
9 下肢骨 (大腿骨・膝蓋骨・脛骨・腓骨)	24 上肢の筋③ (前腕の筋・手の筋)																																		
10 下肢骨 (足根骨・趾) 下肢 (関節)	25 下肢の筋① (内・外寛骨筋)																																		
11 頭蓋骨①	26 下肢の筋② (大腿の筋)																																		
12 頭蓋骨②	27 下肢の筋③ (下腿の筋)																																		
13 頭蓋骨③ 顎関節	28 下肢の筋④ (下腿の筋・足の筋)																																		
14 まとめ	29 まとめ																																		
(期末試験)	(期末試験)																																		
15 期末試験解説	30 期末試験解説																																		
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>解剖学 改訂第2版 (全国柔道整復学校協会監修、医歯薬出版)</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席 4/5 以上を必要とする。 ・定期試験と授業態度等も含め総合的に判断し 60 点以上を合格とする。 																																	

2024年度授業概要

必修

学科名 歯科衛生学科	科目名 歯科予防処置実技実習Ⅰ	担当者 末永 由美																												
種類 (講義・演習・実習)	回数 36回	時間数(単位数) 72時間(2単位)																												
		配当学年・時期 1 学年 前期 後期																												
<p>本科目は実務経験のある教員による授業科目である。</p> <p>歯科医院での10年以上の臨床経験があり、多くの臨床経験から得た知識技術の中で、基礎的な知識・技術の習得を目的とし教育を行っている。</p> <p>[目的・ねらい]</p> <p>歯科衛生士が行うことのできる歯科予防処置法の内容を理解し、器具の正しい把持法、基本的な技術・術式を身に付け、これからの実践で使える技術の基盤作りを目的とする。</p> <p>さらに、患者とのコミュニケーションを円滑にする大切さを理解することを目標とする。</p> <p>[内容の概要]</p> <p>歯科予防処置の知識・技能および態度を基に、患者に対してそれを応用・駆使できる総合能力の充実をはかる。</p> <p>[修了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>臨床の場で実際に患者さんに対して“患者さんのために”自分は何をするべきか何が出来るかを考えることができ、安全で適切な対応ができるようになる。</p> <p>また、チェックリストを各々で作成させることで到達度を把握し、スキルの向上を図る。</p>																														
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容]</p> <table border="0"> <tr> <td>15~16 演習【実習室】</td> <td></td> </tr> <tr> <td>1 実技オリエンテーション【教室・AB合同】</td> <td>17 前期末試験</td> </tr> <tr> <td>2 ピンセット・ミラーの取り扱い方【教室・AB合同】</td> <td>18 試験解説【教室・AB合同】</td> </tr> <tr> <td>3 ファントムの取り扱い・ポジション【実習室】</td> <td>19 グレーシーキュレットスケーラー(構造、特徴)</td> </tr> <tr> <td>4 基本の姿勢【実習室】</td> <td>【教室・AB合同】</td> </tr> <tr> <td>5 シックルスケーラー(構造、特徴)</td> <td>20 グレーシーキュレットスケーラーの把持法・固定【実習室】</td> </tr> <tr> <td>【教室・AB合同】</td> <td>21 0度挿入【実習室】</td> </tr> <tr> <td>6 スケーラーの把持法・固定【教室・AB合同】</td> <td>22~23 グレーシーキュレットスケーラー操作方法【実習室】</td> </tr> <tr> <td>7 スケーラーの把持法・固定【実習室】</td> <td>24 フッ化物の応用、後期試験について【3F実習室、AB合同】</td> </tr> <tr> <td>8~12 シックルスケーラー操作方法【実習室】</td> <td>25~26 グレーシーキュレットスケーラー操作方法【実習室】</td> </tr> <tr> <td>13 シックルスケーラーシャープニング</td> <td>27~28 齶蝕活動性試験【3F実習室】</td> </tr> <tr> <td>【教室・AB合同】</td> <td>29~34 グレーシーキュレットスケーラー操作演習【実習室】</td> </tr> <tr> <td>14 シャープニング復習・前期末試験について</td> <td>35 後期期末試験</td> </tr> <tr> <td>【教室・AB合同】</td> <td>36 試験解説【教室・AB合同】</td> </tr> </table>			15~16 演習【実習室】		1 実技オリエンテーション【教室・AB合同】	17 前期末試験	2 ピンセット・ミラーの取り扱い方【教室・AB合同】	18 試験解説【教室・AB合同】	3 ファントムの取り扱い・ポジション【実習室】	19 グレーシーキュレットスケーラー(構造、特徴)	4 基本の姿勢【実習室】	【教室・AB合同】	5 シックルスケーラー(構造、特徴)	20 グレーシーキュレットスケーラーの把持法・固定【実習室】	【教室・AB合同】	21 0度挿入【実習室】	6 スケーラーの把持法・固定【教室・AB合同】	22~23 グレーシーキュレットスケーラー操作方法【実習室】	7 スケーラーの把持法・固定【実習室】	24 フッ化物の応用、後期試験について【3F実習室、AB合同】	8~12 シックルスケーラー操作方法【実習室】	25~26 グレーシーキュレットスケーラー操作方法【実習室】	13 シックルスケーラーシャープニング	27~28 齶蝕活動性試験【3F実習室】	【教室・AB合同】	29~34 グレーシーキュレットスケーラー操作演習【実習室】	14 シャープニング復習・前期末試験について	35 後期期末試験	【教室・AB合同】	36 試験解説【教室・AB合同】
15~16 演習【実習室】																														
1 実技オリエンテーション【教室・AB合同】	17 前期末試験																													
2 ピンセット・ミラーの取り扱い方【教室・AB合同】	18 試験解説【教室・AB合同】																													
3 ファントムの取り扱い・ポジション【実習室】	19 グレーシーキュレットスケーラー(構造、特徴)																													
4 基本の姿勢【実習室】	【教室・AB合同】																													
5 シックルスケーラー(構造、特徴)	20 グレーシーキュレットスケーラーの把持法・固定【実習室】																													
【教室・AB合同】	21 0度挿入【実習室】																													
6 スケーラーの把持法・固定【教室・AB合同】	22~23 グレーシーキュレットスケーラー操作方法【実習室】																													
7 スケーラーの把持法・固定【実習室】	24 フッ化物の応用、後期試験について【3F実習室、AB合同】																													
8~12 シックルスケーラー操作方法【実習室】	25~26 グレーシーキュレットスケーラー操作方法【実習室】																													
13 シックルスケーラーシャープニング	27~28 齶蝕活動性試験【3F実習室】																													
【教室・AB合同】	29~34 グレーシーキュレットスケーラー操作演習【実習室】																													
14 シャープニング復習・前期末試験について	35 後期期末試験																													
【教室・AB合同】	36 試験解説【教室・AB合同】																													
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論</p> <p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>期末試験、授業態度、身だしなみ、出欠席、提出物を総合的に評価する。60点に満たない者は、再試験を行う。再試験は、再試験のみを評価する。</p> <p>実習時間外に練習を行い基本的な技術を身に付けるように努力すること。</p> <p>技術が著しく劣っている者には、2年生で行う相互実習に参加できない場合がある。</p>																														

2024年度授業概要

必修

学科名 歯科衛生学科	科目名 歯科予防処置実技実習Ⅱ	担当者 末永 由美																													
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	回数 18 回	時間数(単位数) 36 時間 (1 単位)	配当学年・時期 2 学年 前期 後期																												
<p>本科目は実務経験のある教員による授業科目である。</p> <p>歯科医院での10年以上の臨床経験があり、臨床経験をもとに実際の臨床症例にあわせた処置方法や対応について教育を行っている。</p> <p>[目的・ねらい]</p> <p>歯周組織の病的変化を見逃さないために、健康像を十分に理解し、常に人が健康でいられる状態を保つ事が出来るようになる。またさらに、歯周治療の流れを理解し、応用力を身に付け、患者とのコミュニケーションを円滑にすることを目標とする。</p> <p>[内容の概要]</p> <p>歯科予防処置の知識・技能および態度を基に、患者に対してそれを応用・駆使できる総合能力の充実をはかる。</p> <p>[修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>臨床の場で実際に患者さんに対して“患者さんのために”自分は何をするべきか何が出来るかを考えることができ、安全で適切な対応ができるようになる。</p> <p>また、チェックリストを各々で作成させることで到達度を把握し、スキルの向上を図る。</p>																															
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容]</p> <table border="0"> <tr> <td>10</td> <td>パワースケーラー・手用スケーラー【ファントム】</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>口腔内診査【ファントム】</td> </tr> <tr> <td>11～13</td> <td>パワースケーラー、手用スケーラー</td> </tr> <tr> <td>2～4</td> <td>口腔内診査〈相互実習〉【チェア】</td> </tr> <tr> <td></td> <td>〈相互実習〉 【チェア】</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>チェックテスト説明、期末試験説明【教室】</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>歯面研磨〈相互実習〉【チェア】</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>エアフロー・歯面研磨【ファントム】</td> </tr> <tr> <td>15～16</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>7～8</td> <td>グレーシーキュレットスケーラーシャープニング</td> </tr> <tr> <td>17</td> <td>登院前試験</td> </tr> <tr> <td></td> <td>【教室、AB合同】</td> </tr> <tr> <td>18</td> <td>フィードバック</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>チェックテスト</td> </tr> </table>				10	パワースケーラー・手用スケーラー【ファントム】	1	口腔内診査【ファントム】	11～13	パワースケーラー、手用スケーラー	2～4	口腔内診査〈相互実習〉【チェア】		〈相互実習〉 【チェア】	5	チェックテスト説明、期末試験説明【教室】	14	歯面研磨〈相互実習〉【チェア】	6	エアフロー・歯面研磨【ファントム】	15～16	演習	7～8	グレーシーキュレットスケーラーシャープニング	17	登院前試験		【教室、AB合同】	18	フィードバック	9	チェックテスト
10	パワースケーラー・手用スケーラー【ファントム】																														
1	口腔内診査【ファントム】																														
11～13	パワースケーラー、手用スケーラー																														
2～4	口腔内診査〈相互実習〉【チェア】																														
	〈相互実習〉 【チェア】																														
5	チェックテスト説明、期末試験説明【教室】																														
14	歯面研磨〈相互実習〉【チェア】																														
6	エアフロー・歯面研磨【ファントム】																														
15～16	演習																														
7～8	グレーシーキュレットスケーラーシャープニング																														
17	登院前試験																														
	【教室、AB合同】																														
18	フィードバック																														
9	チェックテスト																														
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>歯科予防処置論・歯科保健指導論</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>期末試験、チェックテスト、授業態度、身だしなみ、出欠席、提出物を総合的に評価する。</p> <p>チェックテストが合格出来ていない場合は、期末試験を受験する事が出来ない。</p> <p>期末試験は総合評価で60点以下の場合は再試験を行う。</p> <p>再試験は、再試験のみを評価の対象とする。</p> <p>技術向上の為に実習授業時間外にも練習を行うこと。</p> <p>技術が著しく劣っている、安全に実習を行えない、感染対策が出来ていないと判断した者は、相互実習に参加できない。</p>																													

2 0 2 4 年 度 授 業 概 要

必修

学科名 歯科衛生学科	科目名 歯科保健指導実技実習 I	担当者 植松 汐美																		
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	回数 1 8 回	時間数(単位数) 3 6 時間 (1 単位)																		
		配当学年・時期 1 学年 前期 後期																		
<p>本科目は実務経験のある教員による授業科目である。</p> <p>歯科医院で10年以上の臨床経験を持ち、臨床で得た知識や技術を生かし、問題解決型の教育を行っている。</p> <p>[目的・ねらい]</p> <p>口腔清掃指導を行うために必要な知識、技術および態度を習得する。</p> <p>[内容の概要]</p> <p>歯・口腔の清掃に関する清掃用具の特徴と操作方法、歯磨剤、洗口剤、歯垢染色剤の特徴と使用法 口腔内の観察、口腔清掃状態の評価</p> <p>[修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>口腔清掃用具などの種類について説明ができる。歯磨剤とフッ化物配合歯磨剤の特徴について説明ができる。口腔清掃法について説明、実施ができる。口腔内の観察ができる。</p>																				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容]</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">1 口腔清掃用具 I</td> <td style="width: 50%;">10 口腔清掃状態に関する指標 I</td> </tr> <tr> <td>2 口腔清掃用具 II</td> <td>11 口腔清掃状態に関する指標 II</td> </tr> <tr> <td>3 化学的清掃法 I</td> <td>12 口腔清掃実習 I</td> </tr> <tr> <td>4 化学的清掃法 II</td> <td>13 口腔清掃実習 II</td> </tr> <tr> <td>5 口腔清掃補助用具 I</td> <td>14 口腔清掃実習 III</td> </tr> <tr> <td>6 口腔清掃補助用具 II</td> <td>15 チェックテスト</td> </tr> <tr> <td>7 口腔清掃方法（発表）</td> <td>16 まとめ</td> </tr> <tr> <td>8 口腔清掃方法（フィードバック）</td> <td>17 期末実技試験</td> </tr> <tr> <td>9 歯垢染色法</td> <td>18 解説（A B 合同）</td> </tr> </table>			1 口腔清掃用具 I	10 口腔清掃状態に関する指標 I	2 口腔清掃用具 II	11 口腔清掃状態に関する指標 II	3 化学的清掃法 I	12 口腔清掃実習 I	4 化学的清掃法 II	13 口腔清掃実習 II	5 口腔清掃補助用具 I	14 口腔清掃実習 III	6 口腔清掃補助用具 II	15 チェックテスト	7 口腔清掃方法（発表）	16 まとめ	8 口腔清掃方法（フィードバック）	17 期末実技試験	9 歯垢染色法	18 解説（A B 合同）
1 口腔清掃用具 I	10 口腔清掃状態に関する指標 I																			
2 口腔清掃用具 II	11 口腔清掃状態に関する指標 II																			
3 化学的清掃法 I	12 口腔清掃実習 I																			
4 化学的清掃法 II	13 口腔清掃実習 II																			
5 口腔清掃補助用具 I	14 口腔清掃実習 III																			
6 口腔清掃補助用具 II	15 チェックテスト																			
7 口腔清掃方法（発表）	16 まとめ																			
8 口腔清掃方法（フィードバック）	17 期末実技試験																			
9 歯垢染色法	18 解説（A B 合同）																			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論（医歯薬出版）</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>授業態度、出席状況、実習・提出物・課題への取り組みの姿勢、各テストおよび期末実技試験の結果等により総合評価を行う。</p>																		

2 0 2 4 年 度 授 業 概 要

必修

学科名 歯科衛生学科	科目名 歯科保健指導実技実習Ⅱ	担当者 植松 汐美																			
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	回数 1 8 回	時間数(単位数) 3 6 時間 (1 単 位)	配当学年・時期 2 学年 前期 後期																		
<p>本科目は実務経験のある教員による授業科目である。</p> <p>歯科医院で10年以上の臨床経験を持ち、臨床で得た知識や技術を生かし、問題解決型の教育を行っている。</p> <p>[目的・ねらい]</p> <p>1年次に学んだことをもとに歯科衛生士活動の意義を理解し、様々なライフステージまたは症例に応じた保健指導を行えることを目的とする。また、個別・集団指導の基本的な技法を習得する。</p> <p>[内容の概要]</p> <p>口腔清掃補助用具について、義歯関連清掃用具について、口腔清掃指導（リスク、ライフステージ別）</p> <p>[修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>ライフステージや症例に応じた保健指導ができる。</p> <p>歯ブラシや各種清掃用具の選択と使用法の指導ができる。</p>																					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容]</p> <table border="0"> <tr> <td>1 オリエンテーション、1年次の復習</td> <td>10 登院前試験について（課題の説明、A B 合同）</td> </tr> <tr> <td>2 口腔状況に応じた指導法Ⅰ</td> <td>11 ライフステージ別の口腔清掃指導</td> </tr> <tr> <td>3 口腔状況に応じた指導法Ⅱ</td> <td>12 禁煙指導</td> </tr> <tr> <td>4 口腔清掃法実技Ⅰ</td> <td>13 摂食・嚥下Ⅰ</td> </tr> <tr> <td>5 口腔清掃法実技Ⅱ</td> <td>14 摂食・嚥下Ⅱ</td> </tr> <tr> <td>6 口腔清掃法実技Ⅲ</td> <td>15 ライフステージ（発表）</td> </tr> <tr> <td>7 義歯関連（A B 合同）</td> <td>16 まとめ</td> </tr> <tr> <td>8 セミナー（A B 合同）</td> <td>17 期末試験（登院前試験）</td> </tr> <tr> <td>9 チェックテスト（口頭試問）</td> <td>18 解説</td> </tr> </table>				1 オリエンテーション、1年次の復習	10 登院前試験について（課題の説明、A B 合同）	2 口腔状況に応じた指導法Ⅰ	11 ライフステージ別の口腔清掃指導	3 口腔状況に応じた指導法Ⅱ	12 禁煙指導	4 口腔清掃法実技Ⅰ	13 摂食・嚥下Ⅰ	5 口腔清掃法実技Ⅱ	14 摂食・嚥下Ⅱ	6 口腔清掃法実技Ⅲ	15 ライフステージ（発表）	7 義歯関連（A B 合同）	16 まとめ	8 セミナー（A B 合同）	17 期末試験（登院前試験）	9 チェックテスト（口頭試問）	18 解説
1 オリエンテーション、1年次の復習	10 登院前試験について（課題の説明、A B 合同）																				
2 口腔状況に応じた指導法Ⅰ	11 ライフステージ別の口腔清掃指導																				
3 口腔状況に応じた指導法Ⅱ	12 禁煙指導																				
4 口腔清掃法実技Ⅰ	13 摂食・嚥下Ⅰ																				
5 口腔清掃法実技Ⅱ	14 摂食・嚥下Ⅱ																				
6 口腔清掃法実技Ⅲ	15 ライフステージ（発表）																				
7 義歯関連（A B 合同）	16 まとめ																				
8 セミナー（A B 合同）	17 期末試験（登院前試験）																				
9 チェックテスト（口頭試問）	18 解説																				
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 保健生態学（医歯薬出版）</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>出席状況、授業態度、身だしなみ、提出物、チェックテスト、発表、期末試験により総合評価を行う。 チェックテストを受験していない場合は、期末試験を受験することが出来ないとする。 期末試験で60点以下の場合は、再試験を行う。 期末試験は複数教員で評価を行うこととする。</p>																			

学科名 歯科衛生学科	科目名 歯科診療補助実技実習 I	担当者 森 安曇																							
種類 (講義 ・ 演習 ・ <input type="checkbox"/> 実習)	回数 18回	時間数(単位数) 36時間 (1単位)	配当学年・時期 1学年 <input type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期																						
<p>本科目は実務経験のある教員による授業科目である。</p> <p>歯科医院での臨床経験や訪問診療、在宅口腔ケアの経験を持ち、豊富な臨床経験から臨床症例を用い、技術や知識のみでなく問題解決能力を育成する教育を行っている。</p> <p>[目的・ねらい]</p> <p>歯科診療で使用する材料の操作手順を実際に取り扱うことにより、その性質等を理解し、実際の診療に即した取り扱い方法を身につける。また、診療の流れを把握し、業務の優先順位を考えた段取り力を身につける。</p> <p>[内容の概要]</p> <p>歯科診療で使用される歯科材料の取り扱い方を学び、業務の流れを把握する。</p> <p>[修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>印象材やセメントの練和ができる。</p> <p>歯科材料の取り扱いが正しくできる。</p> <p>周囲に配慮した行動や指示通りの行動をとることができる。</p> <p>歯科診療の流れを把握し、優先順位に応じた行動ができる。</p>																									
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容]</p> <table border="0"> <tr> <td>1 実技オリエンテーション</td> <td>12 歯科衛生士業務 I</td> </tr> <tr> <td>2 印象材 I</td> <td>13 歯科衛生士業務 II</td> </tr> <tr> <td>3 印象材 II</td> <td>14 演習</td> </tr> <tr> <td>4 仮封材 I</td> <td>15 演習</td> </tr> <tr> <td>5 仮封材 II</td> <td>16 まとめ</td> </tr> <tr> <td>6 歯科用セメント I</td> <td>17 試験</td> </tr> <tr> <td>7 歯科用セメント II</td> <td>18 解説</td> </tr> <tr> <td>8 模型材 I</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9 連合印象 I</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10 連合印象 II</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11 歯科用石膏</td> <td></td> </tr> </table>				1 実技オリエンテーション	12 歯科衛生士業務 I	2 印象材 I	13 歯科衛生士業務 II	3 印象材 II	14 演習	4 仮封材 I	15 演習	5 仮封材 II	16 まとめ	6 歯科用セメント I	17 試験	7 歯科用セメント II	18 解説	8 模型材 I		9 連合印象 I		10 連合印象 II		11 歯科用石膏	
1 実技オリエンテーション	12 歯科衛生士業務 I																								
2 印象材 I	13 歯科衛生士業務 II																								
3 印象材 II	14 演習																								
4 仮封材 I	15 演習																								
5 仮封材 II	16 まとめ																								
6 歯科用セメント I	17 試験																								
7 歯科用セメント II	18 解説																								
8 模型材 I																									
9 連合印象 I																									
10 連合印象 II																									
11 歯科用石膏																									
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 歯科材料</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>実技試験 80% 提出物 10% 出席・授業態度 10% で総合評価を行う。授業中の私語、居眠り、忘れ物、不真面目な態度等及び身だしなみが整っていない場合は減点の対象とする。</p>																							

2024年度授業概要

必修

学科名 歯科衛生学科	科目名 歯科診療補助実技実習Ⅱ	担当者 森 安曇																																									
種類 (講義・演習・ 実習)	回数 54回	時間数(単位数) 108時間(3単位)	配当学年・時期 2学年 前期 後期																																								
<p>本科目は実務経験のある教員による授業科目である。</p> <p>歯科医院での20年以上の臨床経験があり、臨床に必要な歯科診療補助に必要な技術・知識の習得とともに、チーム医療のスタッフとして専門的な立場から行動できるよう教育を行っている。</p> <p>[目的・ねらい]</p> <p>臨床実習に向けて歯科衛生士として必要な知識、技術を高める。今まで学んだことを総合的に考え、自らの行動をマネジメントできる段取り力をみにつけることを目標とする。また、コミュニケーション能力の充実を図る。</p> <p>[内容の概要]</p> <p>臨床実習に向けてより具体的な歯科診療補助について知識、技術を高めるために、実技実習を行う。</p> <p>ロールプレイを通し、歯科医療現場で自主的に行動することが出来るよう実技実習を行う。授業の中でチェックテストを行うことで到達度を図る。</p> <p>[修了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>症例に応じた手順、器具や器材の準備ができる。</p> <p>印象材やセメントが適切な状態で練和できる。</p> <p>治療内容を理解し、器具の名前や使用方法が説明できる。</p>																																											
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容]</p> <table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>23～26</td> <td>歯科治療時に使用される器具・器材</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>1年次の復習</td> <td>27～36</td> <td>器具のセッティング</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>バキュームテクニック</td> <td>37～49</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>歯間分離・隔壁法</td> <td>50～53</td> <td>バキュームセミナー(予定)</td> </tr> <tr> <td>5～6</td> <td>成形歯冠修復</td> <td>54</td> <td>期末試験(登院前試験)</td> </tr> <tr> <td>7～11</td> <td>テンポラリークラウン</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>12～13</td> <td>ラバーダム防湿</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>印象採得(ファントム)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>15～20</td> <td>スタディーモデル</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>21～22</td> <td>スタディーモデル(トリミング)</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>				1	オリエンテーション	23～26	歯科治療時に使用される器具・器材	2	1年次の復習	27～36	器具のセッティング	3	バキュームテクニック	37～49	演習	4	歯間分離・隔壁法	50～53	バキュームセミナー(予定)	5～6	成形歯冠修復	54	期末試験(登院前試験)	7～11	テンポラリークラウン			12～13	ラバーダム防湿			14	印象採得(ファントム)			15～20	スタディーモデル			21～22	スタディーモデル(トリミング)		
1	オリエンテーション	23～26	歯科治療時に使用される器具・器材																																								
2	1年次の復習	27～36	器具のセッティング																																								
3	バキュームテクニック	37～49	演習																																								
4	歯間分離・隔壁法	50～53	バキュームセミナー(予定)																																								
5～6	成形歯冠修復	54	期末試験(登院前試験)																																								
7～11	テンポラリークラウン																																										
12～13	ラバーダム防湿																																										
14	印象採得(ファントム)																																										
15～20	スタディーモデル																																										
21～22	スタディーモデル(トリミング)																																										
<p>[使用 テキスト・参考文献]</p> <p>歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論 医歯薬出版</p> <p>歯科衛生学シリーズ 歯科材料 医歯薬出版</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>期末試験、チェックテスト、授業態度で総合的に評価する。期末試験は各項目すべてで60%以上の点数が無い場合は単位を与えない。欠席、早退、私語等授業態度が不良な場合や身だしなみが整えられていない場合は、減点する。</p>																																									